

防災マップを 作りましょう

自分の住む地域、自宅周辺で起こりうる災害について知り、どんなことが起こりうるか想像してみましょう。

1

自治体が配布しているハザードマップを入手しましょう。

ハザードマップとは？

自然災害による被害予測をマップ化したもの

災害ごとに、被害の範囲や程度、避難所や災害時拠点病院(災害発生時に傷病者の受入れ拠点となる病院)、避難ルート等がわかります。ほか、国土交通省の「ハザードマップポータルサイト (<http://disapotal.gsi.go.jp>)」でも検索できます。

2

自治体が発行する防災冊子等、地域の防災情報を集めましょう。

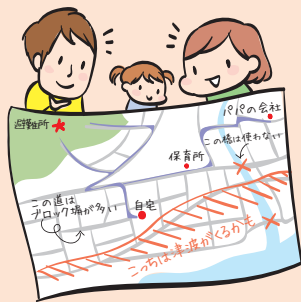
お住まいの地域の避難所のことや、備蓄品についてご存知ですか？

災害時の対応は、自治体によって異なります。地域や町内会等で行われる防災訓練にも積極的に参加して、地域の方と顔見知りになっておきましょう。

3

我が家の防災マップを作りましょう。

自宅周辺の白地図(Googleマップ等を印刷しても良いでしょう)を用意し、①や②から得られた情報を書き込みます。防災マップが出来上がったら、小さな子どもを連れて、または妊娠中の身体で、安全に避難できるルートかどうか、実際に歩いて点検しましょう。



防災マップ・チェックポイント！

- 古い家屋やブロック塀等は、揺れが収まった後にも倒壊の危険が。
- 窪地や段差も要注意。洪水時には足下が見えなくなることもあります。
- 狭い路地は、逃げるのが困難に。坂道は、洪水時に水の勢いが増します。
- 小さな河川でも、雨量や津波の大きさによっては危険になることも。

災害から小さな命を守るために必要なこと

いろいろな災害の危険性を考えてみましょう。



身近で想定される災害と、我が家(自宅周辺や自宅)に起こりうることは？

地震 →

地震以外の災害についても、検討してみましょう。

_____ →

.....
_____ →



災害時の避難ルートを書いてみましょう。(地図を貼っても良いでしょう)